

## 家庭



子供に聞かせる話につきて二

東 基 吉

寓言や童話を子供に聞かせることの効益は、前に申しましたが、こゝに寓言や童話を子供に聞かせるのに反對を唱へる人があります。其人の申すには、つまり寓言や童話は子供に偽を教へるのである。狼が物いふとか、猫が話をするとか、桃の中から桃太郎が生れたとか、雉や狼や犬などがお供をして鬼が島へ出掛けたとか、丸でありもしな

い作り話を子供に聞かせるのである。これでは親が子供に虚偽を教へる、子供は偽を覺えるのだとかういふのですが、なる程一方からは理屈もありません。

併し同じ偽りと申すにも種類があります。悪い目的を達するため偽りと、高尚な想像の作用の結果から出来る偽りとです。同じく偽といふもの、其性質が大變に違つて居りまして、偽といふ同じ名を以て覆うて仕舞うのは、後の方に取つては聊酷です。即前のは、例令ば罪を犯して之を隠すとか、人を陥れて利を得やうとかいふ時に吐く偽で所謂盜賊の始めだと申すもの、之は無論罪です、子供に此んな罪の種を播く様な話などは、無論不可ないです。併し後の方は、丸ツさり性質が違ひまして、これは總べての文學上の材料と

なるものです、總べての大文學には想像の力を缺くことが出来ない、有名なホメールの文學にしてもどの國の神話にしても近代の妙文傑作にしても悉く些少の事實を材料にして之を非凡な想像の力で以て着色したのである。つまり想像力の非凡な者の手になつたものほど、其文學上の効益が著大なのであります。併も之を想像の結果だから直ちに偽りを教へるものだといつて排斥しませうか。古い我國の神話や、遠い希臘の英雄時代の詩文はさて置いて、白髮三千丈 依憂如此 長といふ、何處に三千丈の白髮がございませう 鶯の凍れる涙今やとくらんといふ 鶯に涙が出ませうか、よし出るにしても涙が果して凍りませうか 併も吾々は之を偽りである、罪であるといつて排斥し去りませうか。

寓言や童話はなる程造り話です、或意味の虚偽です。併し之は彼の想像的偽、或は文學的偽りである以上は、たゞ其點だけで排斥し去ることは決して出来ない。高言重話は即、兒童文學である、幼年文學である。大人に文學の必要ある如く幼兒にも亦必要があるのです。

か様な考で寓言童話といふものを見て、さて其中で前に申した様な材料は取り除けたいと考へます。

大事を取り過ぐることに

ふみ子

幼兒は實に可憐なものでございます。また尤もかよわいものでございます。この可憐なる、かよわい幼兒に對しては、十分の愛情と、注意ふかい